

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170201446), 法人名 (有限会社コンフォール), 事業所名 (グループホームこんふおーる), 所在地 (札幌市北区新川西3条3丁目12-15), 自己評価作成日 (令和3年8月12日), 評価結果市町村受理日 (令和3年11月11日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手稲山が一望でき、季節ごとの景色を見る事が出来る。又、ホームの裏には畑があり、苗の成長過程や収穫を楽しむことが出来る。毎月の行事があり、外出や外食行事を楽しみ、ご家族様参加の納涼祭やクリスマスパーティもあり、楽しいひと時を過ごしている。(現在コロナウイルス感染対策にて外出行事や御家族様参加行事は行っていない) ケアに関しては入居者様が状態が違っていても、代替えケアによって可能に出来るようにスタッフ一丸となり常に考えている。些細な事でも常に入居者様一人ひとりにとってより良いケアをするには…とスタッフ間で話し合いを行い実行している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170201446-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年9月15日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所は、北区新川の閑静な住宅街にあり、敷地内には同法人のデイサービス事業所が展開されている。建物は住宅地に溶け込んだ木造二階建ての「一軒家」で、玄関から見える居間などの景色は、自宅のような生活感、温かみが感じられる。
・職員の姿勢は丁寧で優しく、利用者・家族の意向の聞き取りに努めている。毎月、利用者個別とホーム全体の2種類のお便りを作成し、生活状況や居室の様子、体調面等をこまめに伝えており、家族からも好評を得ている。介護計画への取り組みは、管理者、ケアマネジャーを中心に、介護記録様式を職員がケアプランを意識出来るよう工夫しており、日々のモニタリング成果を月例の会議で確認、協議して、現状に即した計画となるよう努めている。
・現在は相互に自粛傾向であるが、通例では地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域とのつながりを重視し、行事への積極的参加や福祉に関する相談に応じる等で連携を深めている。
・コロナ禍で全てが制限されるなか、ホーム菜園で職員と共に野菜作りを行ったり、行事等を企画する等、楽しみある生活となるよう注力している。また、外出についても外気浴等、出来る事から少しずつ取り組み、コロナを理由に閉じこもる事のないよう、職員間で検討を重ねている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示し常に職員全員が確認出来るようにしている。入居者様の日々の生活の中に理念を取り入れられるように実践している。	職員は定期的に理念について学ぶことで、日常的に共有している。また、介護姿勢、理念の達成度について会議の場で検証、協議している。	事業所理念を基に、職員間で協議して年間目標の設定を検討している。今後に期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	入居者様と散歩や外出をした際に近隣住民の方と挨拶を交わすようにしている。事業所としては運営推進会議に地域の方へ参加の呼びかけを行い情報交換を行っている。	現在は相互に往来を自粛しているが、通例では地域代表の運営推進会議への参加や、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内の方々やご家族様へ参加の呼びかけを行い、認知症についての話し合いなどもさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度運営推進会議を行い、サービスの質の向上に生かすため、意見交換を行った事を議事録に乗せファイルに綴じ、スタッフがいつでも閲覧出来るようにしている。	通例では2ヶ月に1度開催し、参加者、全家族に議事録を送付している。コロナ禍により、現在職員のみで開催しているが、包括支援センターや地域代表等、推進会議メンバーに書面で報告し、意見を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市町村担当者と連絡を取り合い、運営推進会議で地域包括支援センターの職員と情報交換を行い情報の共有を行い、協力関係を築くようにしている。	通例では、市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを受けている。定例の運営状況報告や、地域高齢者や事業所の状況について、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部や外部研修で身体拘束について学んだり身体拘束委員会で意見交換をしてスタッフ全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、指針を基に3か月に1回開催している。委員会では、現状の検証を行い、職員間で共有している。不適切なケアと思われる事は、相互に注意し合う事で、拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部や外部研修にて虐待について学んでいる。入居者様の体に出来た変色はどのようにして出来たものなのかを考え記録に残している。スタッフの態度や口調にお互い注意し合う事で防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で学ぶ機会を設けている。個々の必要性に応じて活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時利用者様・ご家族様が不安に思っていること等を説明させていただき、御理解や納得をして頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様や外部の方から気軽に意見等をもらえるように玄関に意見箱を設けている。又、ご家族様にケアプランの説明時や面会時に意見や要望などないか聞いている。	通例では、家族には電話や来訪時に近況を伝えるとともに、積極的に意見・要望を聞き取っている。また、毎月、個別・ホーム便りを発行し、写真を交え生活状況、体調面を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで日々の業務や入居者様のケアについて話し合いをしている。職員の出した議題についても話し合っている。	月例の会議や申し送りの場で、職員からの意見や提案について協議して、運営に活かしている。年2回の個別面談の他、個別の相談には管理者が随時対応する等、働きやすい環境作りに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がやりがいを感じて向上心を持てるように、職員の意見を取り入れた業務改善を行ったり、職員同士も連携しながら業務を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のスキルアップの為、外部の研修の案内を掲示板に貼りだし、研修の参加を呼び掛けている。(コロナ禍の為積極的な呼びかけはしていない)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員向けの研修の案内が来た際、職員に呼びかけ、同業者との交流の機会を作る事で入居者様へのサービスの質の向上に努めている。(コロナ禍の為研修案内は来ていない)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面談を行い、その方が困っている事やご要望に耳を傾け、入居後も安心して生活出来るように心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談で困っている事や不安な事を聞き相談がされやすい関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人やご家族様との会話の中から情報収集をして必要としている支援を見極めて、他のサービスも含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様と一緒に出来る役割を共に行ったり、散歩や行事などを一緒に楽しみ、関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会しやすい環境作りをしたり、ご家族様にご本人の様子を電話やお便りで伝えご家族様とご本人の絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の馴染みの方との面会がしやすい環境作りと、手紙を頂いた際にはお返事を書いて頂き職員が責任もって投函している。また、散歩の際に一緒にポストへの投函している。	通例では、希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。現状では電話や手紙の機会を増やし、関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が会話等を楽しめるように、職員が仲介に入り話題を提供したり、食器拭きや洗濯量の際には入居者様同士協力し合いながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に新たなサービスを利用されている場合でも御家族様からの相談等を受けるようにしている。必要に応じて面会を行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談での意向の聞き取りや意思決定が難しい方からも普段の様子や表情、好まれる行動から希望をくみ取るようにしている。	本人からどのように過ごしたいのか、具体的な希望・意向を聞き取る等、家族にも協力を得ながら、情報収集に努め、日々のケア、介護計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴やどのような生活環境だったのかをご家族様からやご本人との日々の関りの中から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の表情や行動・言動から普段と様子に変わりはないか。心身状態に関しては全身の観察などから現状の把握をして職員間でも情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様のケアの在り方について職員間で会議や必要時に意見交換を行い、それを基に御家族様からも意見や要望を聞いて介護計画を作成している。	職員相互で日々のモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や医師・看護師の意見を考慮しながら、介護計画を作成している。また、随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の入居者様に対する気づきや変化、ケアプランの反映。実践した事等を記録に記載して介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望やその時々ニーズに合わせて買い物支援を行っている。コロナ禍の為スタッフが買い物を代行したり、通販で衣類の購入を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に根ざした生活が出来るように、市の金銭管理サービスを利用したり、2か月に1回床屋に来てもらっている。避難訓練は年2回実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は月に2回あり結果に関してはお便りや電話での報告を行っている。入居前からのかかりつけ医の受診に関してはご家族様に協力もして頂きながら行っている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、協力医療機関による訪問診療の受診結果については都度、お便りや電話で家族に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定・入浴や更衣時に全身状態の観察や排泄状況等を基に体調変化に一早く気付けるようにして協力機関に報告・相談をし対応についての指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入居者様の情報提供している。入院中の状態は電話で病院と情報交換をし早期の退院が出来るように連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居前の面談時や必要に応じた際に、重度化した場合の話し合いを行い、ホームでの生活で出来る事、難しい部分を御家族様と十分に話し合っている。協力機関との連携も行っている。	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ている。医療機関との連携体制があり、家族と共に終末期を支えるために話し合いを重ねている。利用者の状況に合わせた職員間の話し合いも、適時行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習や内部の勉強会にて応急手当や初期対応について学んでいる。AEDの使い方についても学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様も一緒になり参加して頂き避難訓練を実施している。消防立ち合いの際には評価をして頂いている。こちらからの質問にも答えて頂いている。地域の方にも運営推進会議の際等で伝え協力体制を築いている。	利用者も参加して火災想定、自然災害を含めた自主避難訓練を定例で行っている。緊急持出し用の避難グッズや備蓄品、冬季用の暖房器具等は定期的に確認、整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格の尊重やプライバシーの確保に努め、欠けている部分があればその時々やミーティングの際に話し合いを行っている。	職員は接遇や言葉使い、望ましいケアについてミーティングの場で検討している。不適切と思われる対応については、都度、その場で改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でその方の希望や思いを聞き取りどの衣類を着たいか等ご本人に決めてもらったり、難しい方には選択肢を出し決めてもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員都合の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合にならないよう入居者様一人一人のペースに合わせた生活を支援させていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服は一緒に選んだり、2か月に1度訪問理容に来ていただいて、ご本人やご家族様の希望を聞きながら散髪して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前にはおしぼりを畳んで頂いたり、テーブル拭きをして頂いている。配膳時には食材やメニューの説明をしている。食事後には下膳や食器拭き等の片付けをして頂いている。	献立は利用者の希望を取り入れており、季節感・彩りを大切にしている。可能な利用者には配膳準備・片付けなどを手伝ってもらい、楽しみながら力を活かせるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の食事摂取量・水分摂取量などについては記録に毎日記載している。栄養を考えた献立を作成し一人一人に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、口腔内をの確認を行い口内炎等発見に努め、必要に応じて職員が仕上げを行い磨き残しがない様になっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解し、排泄の失敗を減らすため排泄チャート表を確認しながらトイレの声掛けやトイレ誘導を行っている。介助が必要な方には職員が支援を行っている。	トイレでの排泄を基本としており、チェック表を活用し、職員間で一人ひとりのサインを共有、見逃さないように注意し、無理のない自然な排泄となるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝朝食時にヨーグルトを提供したり、おやつ後にはお便が出やすくなるよう体操も行っている。便秘の方には協力機関から下剤を処方して頂き医師の指示で服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが、入居者様の希望に合わせてながら週二回は入れるようにしている。体調や安全を重要視しながら会話をしながら楽しんで入浴が出来るよう支援している。	ほぼ毎日お湯はりを行い、週に2回以上入浴出来るよう努めている。拒否がある場合、無理強いすることなく、時間帯や担当者を調整し、会話しながら楽しみある時となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切に、自室でテレビ・ラジオ・読書等を楽しんでもらいながらベッドにて休息されている方もいる。安眠が出来るように室温や湿度調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を見ながら一人ひとり使用している薬の特性を理解して服薬介助を行っている。症状の変化時には協力機関への報・連・相を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、読書、音楽鑑賞、友人へ手紙を書く等一人ひとりに合った支援で気分転換を図れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支	個々の希望を聞きながら戸外へ散歩へ行っている。現在コロナ感染対策にてホーム裏の畑のみ散歩を行っている。	感染防止に留意しながら、個別に声掛けをし、近隣への散歩やホーム菜園での野菜作り等、職員と一緒に外出し、外気に触れる機会作りに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様一人ひとり欲しいものがある場合や職員が必要と感じた場合、現在コロナ感染対策にて全て職員が代行して購入を行い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望により御家族様に電話をしたり手紙のやり取りを出来る様に職員が準備をしたり等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には行事の写真を掲示し定期的に貼り替えを行っている。共用スペースのリビングは快適に過ごせるように室温・湿度・光等の調節を行っている。	リビングなど共用スペースは、温・湿度が適切に保たれている。職員と利用者が共同で作った季節感ある作品が装飾され、明るく、清潔で安全な環境作りに留意し、落ち着いた生活が出来よう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士と一緒にテレビを見たり会話を楽しめるように状況に応じてスタッフが仲介に入ったりしている。一人になれる時間も作れる様に支援している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの写真や絵等を飾り、ご本人様が居心地よく安心して生活していただける様に工夫している。	居室には、自宅から使い慣れた家具や生活雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、安全に安心して過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が安全に生活出来る様に手すりを備えていたり、歩行の妨げになるような物は置かずに環境整備を行い出来るだけ自立した生活を送れるようにしている。		